

軽井沢絵本の森美術館 2025年春展 「たのしいイソップ童話の世界」

会期：2025年3月8日（金）～2025年6月22日（日）

絵本の起源と言われる「世界図絵」は、現在でいう教科書や図鑑のような役割を持っていました。さらに18世紀の教育では、子どもに知識や道徳を教えることが重視されるようになります。

この時期の子どもの本は、「教訓」を題材にすることが多くありました。そこでよく取り上げられたのが「イソップ童話」です。動物が擬人化したような形で、人生の教訓や風刺を表現するイソップ童話は、19世紀末～20世紀にかけて活躍したウォルター・クレイン、アーサー・ラッカムといった画家たちによって、描かれるようになりました。堅苦しく感じる「教訓」も、動物の姿を通して教えてくれるイソップ童話に、子どもたちは親しみを覚えてきたのです。



いまいあやの「ウサギとカメ」『イソップ物語 13のおはなし』
©2012 Ayano Imai/BL出版

本展では、長野県佐久市在住の絵本画家・いまいあやの氏による『イソップ物語 13のおはなし』（BL出版、2012年）の絵本原画を中心に、さまざまなイソップ童話をイラストともにご紹介します。「ウサギとカメ」「キツネとぶどう」などの有名なものから、「オンドリと宝石」「泉のほとりのシカ」といったあまり知られていないものまで、多くのイソップ童話にふれていただくことができます。いまい氏が描くイソップ童話の中でも「みえっばりのカラス」と「カラスとハトたち」は、それぞれのお話のずる賢いカラスが、一枚の絵の中で対になっているユニークな構図の作品です。

さらに、いまい氏の代表作『くつやのねこ』（BL出版、2010年）の特集展示を行います。素材となった「ながぐつをはいたねこ」の作者シャルル・ペローの紹介をまじえながら、本作の魅力をひも解いていきます。

【企画展概要】

タイトル	2025年春展「たのしいイソップ童話の世界」
会期	2025年3月8日（土）～2025年6月22日（日）
場所	ムーゼの森 軽井沢絵本の森美術館 第2展示館
開館情報	<p>◆開館時間 【3月～4月】10：00～16：00 【5月～10月】9：30～17：00 ※最終入館は閉館の30分前 ※4/26（土）～4/30（水）は9：30～17：00</p> <p>◆休館日 火曜日 ※GW期間中の4月29日、5月6日は開館（5月7日は閉館）、7月～9月は無休</p> <p>◆入館料 大人1,000円、中・高生700円、小学生500円、小学生未満無料 【エルツおもちゃ博物館とのセット券】大人1,500円、中・高生1,000円、小学生700円、小学生未満無料</p>

軽井沢絵本の森美術館 2025年 春展 「たのしいイソップ童話の世界」

会期：2025年3月8日（土）～2025年6月22日（日）

プレスリリース

展示の見どころ

・佐久在住の絵本画家・いまいあやの氏の原画を展示

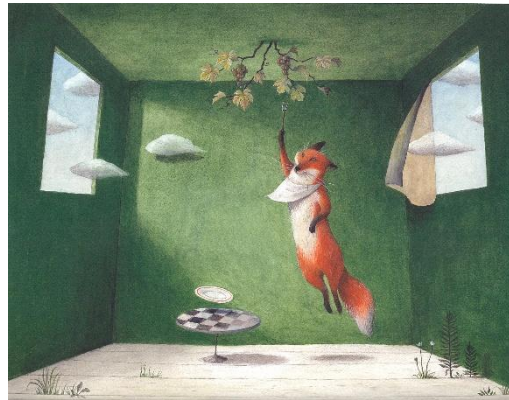
『イソップ物語 13のおはなし』（BL出版、2012年）

本展では、佐久在住の絵本画家・いまいあやの氏による『イソップ物語・13のおはなし』（2012年、BL出版）の絵本原画を展示しています。

イソップ童話は、動物が人のように話している、一見すると不思議な世界観のおはなしです。その世界観は、近現代の多くの画家たちによって表現されてきました。同じ話でも、画家自身の感性や想像力によって、まったく異なる描き方がされています。

例えば「キツネとぶどう」を見てみましょ

う。このお話は、キツネが高い木に生えているぶどうが取れず、「どうせ酸っぱいぶどうだ」と負け惜しみを言う内容です。19世紀末に絵本の基礎を築いた画家ウォルター・クレインは、ぶどうをうらやましそうに見上げるキツネを描いています。一方、いまい氏のキツネは、フォークを使って天井のぶどうを狙う、ひたむきなキツネの姿となっています。同じイソップ童話でも、画家がどのように描いているのか、いまい氏の絵本原画を中心に、じっくりとご鑑賞ください。



▲2人の画家による「キツネとぶどう」

いまいあやの『イソップ物語 13のおはなし』©2012 Ayano Imai/BL出版(左)

ウォルター・クレイン/『幼子のイソップ(The Baby's Own Aesop)』George Routledge&Sons、1887年(右)

【いまいあやの プロフィール】

1980年にイギリス・ロンドンに生まれ、イギリス・アメリカ・日本で育つ。武蔵野美術大学出身。2003年に『108 ぴきめのひつじ』（文溪堂）、2004年に『ベルナルさんのぼうし』、2006年に『チャッピーの家』、2009年に『くつやのねこ』、2012年に『イソップ物語 13のおはなし』（4作すべてBL出版）がポローニャ国際絵本原画展にて入選したのをきっかけに、国内外で作品が読まれている。また、『くつやのねこ』は、2011年のプラティスラヴァ世界絵本原画展での子ども審査員賞を受賞している。現在は軽井沢町にほど近い、長野県佐久市に在住。

『くつやのねこ』（BL出版、2010年）

いまいあやの作『くつやのねこ』は、2010年に刊行され、ポローニャ国際絵本原画展で入選しました。また、2011年にはプラティスラヴァ世界絵本原画展にて、子ども審査員賞を受賞しており、いまい氏の代表作の一つです。このお話は、17世紀フランスの宮廷画家シャルル・ペローの創作童話としても知られる「ながぐつをはいたねこ」を素材にしています。ねこが知恵をはたらかせ、主人に幸せをもたらす展開は共通しますが、いまい氏がどのようにこのお話を現代に蘇らせたのか、本展では本作と「ながぐつをはいたねこ」を比較しながら、お話の魅力に迫っていきます。



▲『くつやのねこ』の原画を展示している展示室

【お問い合わせ先】

ムーゼの森 軽井沢絵本の森美術館 【TEL】0267-48-3340【E-mail】info@museen.org
〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 182（ムーゼの森） FAX：0267-48-2006
企画展特集サイト <http://museen.org/event/>